

Hokkaido University Institute for the Advancement of Higher Education

ニュースレター



北海道大学 高等教育推進機構

Newsletter No. 118

経済同友会と連携したインターンシッププログラムは オンラインでの実施

(4 ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言 FOREWORD

北大の入試改革はどうなった？

高等教育推進機構 高等教育研究部 准教授 岩間 徳兼

はじめに

2016年4月発行のニュースレター105号の巻頭言において、当時、高等教育研究部長・アドミッションセンター副センター長の喜多村昇教授が「北大の入試改革に向けて」というタイトルで入試改革の検討状況について報告をしました。それから4年ほど経ち、今年、東京オリンピックが開催されるはずだった2020年です。報告で触れられたように、来年早々には大学入試センター試験に代わる新しい試験「大学入学共通テスト」の実施が控えています。この間、当該テストの実施と合わせて北海道大学における入学者選抜の改革を行うべく、高等教育研究部では、部内の入試に関わる教員やアドミッションオフィサーを中心として、改革案の検討や新たな入試の導入に関する作業を行ってきました。

そして、当初の予定とは異なり令和4年度入試(令和3年度実施)からとはなりましたが、フロンティア入試という形で本学の入試が改められることが公

表されましたので(https://www.hokudai.ac.jp/admission/R4_change.pdfからダウンロード可)、今回は前回報告時以降の検討について改めて報告します。

研究部におけるその後の検討

ニュースレター105号巻頭言の記述のように、改革案の検討初期には、

- ア) 高校・大学・社会の結びつきを強く意識した入試改革
- イ) 本学が求める人材に必要な能力・資質(コンピテンシー)の明確化に基づく入学者受け入れ方針、教育課程編成・実施の方針、卒業認定・学位授与の方針の再定義
- ウ) 多面的・総合的な入学者選抜方法

エ) 入試業務の省力化
といった項目を中心に議論を行いました。ア) は高大接続システム改革会議「最終報告」(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htmからダウンロード可) の内容とも整合的で、これを大きなテーマとして、大学での教育における単なる入り口管理ではなく、大学や大学院卒業後を見据えた高い視点からその後の様々な検討を進めてきました。その視点に立った上で、イ) については、三つの方針の再定義とまでいかずとも、従前の全学および各部局の入学者受け入れ方針、教育課程編成・実施の方針、卒業認定・学位授与の方針をベースとして、求める人材に必要なコンピテンシーや評価を想定した時のレベルの違いを定め、具体的な入学者選抜場面での利用について議論を深めました。

また、学内外の利害関係者からの意見を広く聴く場として2017年に北大入試改革フォーラムの開催をスタートさせるとともに、2018年には本学で初めてアドミッションオフィサーを採用し、後期中等教育の実情を鑑みながら慎重に検討を進めました。結果として、ウ) に関して当初念頭に置いた、知識を問う従来型の筆記テストとは異なる北大独自の個別テストや大学入学共通テストとともに調査書、活動報告書、各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果等を点数化して総合的に評価するTotal Grade Point (TGP) を利用した入学者選抜については方針が改められましたが、実施規模を検討した上で、多面的・総合的な評価に基づく入学者選抜の実現へ向けて改めて検討を進めました。一方で、エ) については、本学で出願にインターネットを利用するようになったことと合わせ、入学者選抜業務におけるコンピュータシステムの利用は業務の省力化・効率化にとって有効であるという認識のもと、利害関係者への確認を行いながら、フロンティア人材評価システムと呼ばれるシステムを開発しました。

フロンティア入試 (Type I) におけるコンピテンシー評価の導入

前述の通り、北大では、令和4年度入試からフロンティア入試が行われます。これは総合型選抜 (旧AO入試) として導入されるもので、この入試を通

して、「将来大学や社会での新しい価値の創造を目指し、新しい時代を生き抜く素養と、北海道大学で学びたいという強い意志を持つ学生を広く募集します。」(入試予告より)。出願書類、選抜方法の違いによりType I とType IIがありますが、ここでは、我々の検討と関係のあるType I についてのみ記述します。Type I の特色は、「高等学校等における多様な活動を、各募集単位が定める評価軸に沿って高校教諭が評価し、その結果を選考に用いる。」ということです。評価軸に沿った評価はコンピテンシー評価と呼ばれ、そのベースにはイ) として検討してきた求める人材に必要なコンピテンシーの内容があります。また、この評価はフロンティア人材評価システムと呼ばれるWeb入力システムを通して行われます。

教科に関する学習や部活動など高等学校生活の多様な場面で行われる活動を、大学や各募集単位として期待するコンピテンシーの観点から多面的・総合的に評価し、それを選抜に利用します。なお、高校教諭による評価の妥当性を確保するために最上位の評価を付ける場合に限り証跡の提出も求めます。

コンピテンシー評価の仕組みは、令和2年度入試 (令和元年度実施) でも、医学部医学科、水産学部それぞれのAO入試においてすでに導入されました。その振り返りを踏まえ、令和4年度のフロンティア入試での拡大導入に向けて、各部局と連絡を取りながら準備を進めているところです。

おわりに

フロンティア入試の導入は定員規模からすると、改革というよりは変更といったほうがよいかもしれません。また、内容としても当初の検討事項の一部にとどまります。しかしながら、小さくとも確実な一歩です。新学習指導要領の内容から分かるように、小中高の各教育段階の教育がコンピテンシーベースへと変わってきています。また、コンピテンシーを定める大学が散見されるように、その流れは着実に大学にも入ってきています。今回の変更の根底にひっそり流れるコンピテンシーが、北大における入学者選抜や教育の将来的な改善につながっていくことを期待しています。

全学教育 GENERAL EDUCATION & 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

全学教育委員会報告

第1回全学教育委員会 (令和2年6月11日開催)

議題1. 令和2年度全学教育委員会各種専門部会等の委員の選出について

本年度の全学教育委員会各種専門部会等の委員について、ローテーションに基づき選出することについて了承されました。

議題2. オンライン授業実施にかかる検証及び今後の在り方について

全学教育部としてオンライン授業の実施状況を把握し、現在の問題点の把握及び検討を行うため、授業担当教員に対する調査を実施しました。その結果

を取りまとめた資料について、意見交換を行いました。成績評価方法について厳密な成績評価ができるのか、という意見や、期末試験は対面で行いたい、という意見が複数あり、今後の対応を科目責任者会議で審議することとしました。

議題3. 令和2年度全学教育委員会の検討事項について

令和2年度全学教育委員会の検討事項について、了承されました。責任部局における開講コマ数の検討、新たな科目の開講状況、オンライン授業実施の問題点の検討などが検討事項とされました。

(白木沢 旭兎)



学生支援 STUDENT SUPPORT

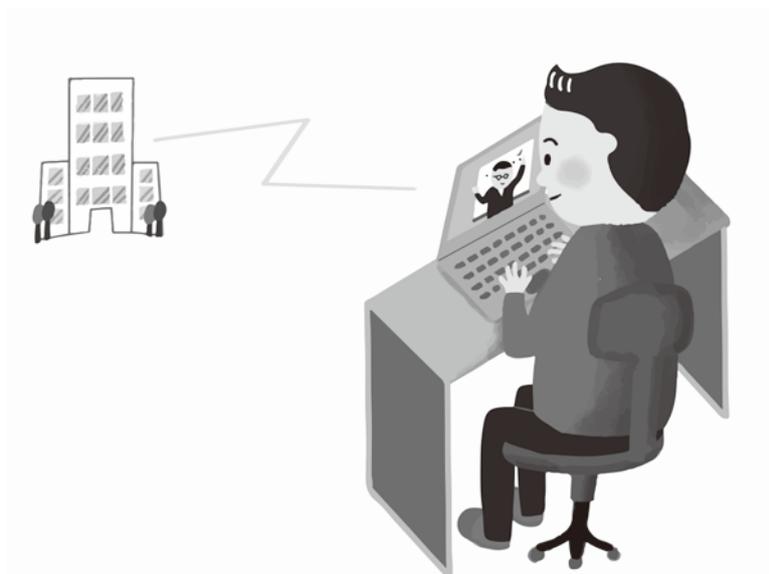
経済同友会と連携したインターンシッププログラムは オンラインでの実施

2016年度から公益社団法人経済同友会が実施するインターンシップに参加してきましたが、昨年度より経済同友会が中心となり「一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会」を設立し、本学も正会員として参画することとなり、同協会の一員として夏季休暇中にインターンシップを実施することになりました。

本インターンシップは経済同友会が提唱した学部1，2年生からの3～4週間程度のより教育的要素を強くした長期インターンシップです。

今年度は、野村証券、日本航空、コニカミノルタ、

三菱ケミカル、全日本空輸、JR東日本、三井不動産、KDDI、凸版印刷、住友林業、小松製作所の各1名、計11社、11名の学生を派遣する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、6社が中止となり、野村証券、日本航空、JR東日本、三井不動産、凸版印刷の5社5名についてはオンラインでの実施となりました。また、インターンシップ期間を短縮し実施する企業もありましたが、実施企業はオンラインによる業務説明や課題設定、グループワークなど多様なカリキュラムを展開していただきました。



日誌 EVENTS, April-July

4月

- 2日・3日・6日 (行事)
 - 新渡戸カレッジ入校説明会：(資料配布, Webサイト動画配信) (大学院)
- 8日 (行事) 新渡戸カレッジオナーズプログラム合格発表 (大学院)
- 9日 (オンライン説明会)
 - 遠隔授業に関する説明会
- 10日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ執行部会
- 10日～5月8日 (研修)
 - 令和2年度1学期全学教育科目に係るTA研修会
- 13日 (行事) 新渡戸カレッジ基礎プログラム1年次入校説明会：(Webサイト動画配信) (学部)
- 13日～21日 (会議)
 - 令和2年度第1回高等教育推進機構運営委員会 (持ち回り)
- 15日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
- 16日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第1回
- 20日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第2回
- 23日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第3回
- 24日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ定例会 (持ち回り) (学部)
- 27日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第4回
- 30日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第5回

5月

- 1日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ運営会議大学院教育コース教務専門委員会 (持ち回り)

- 1日 (会議) 第2回新渡戸カレッジ執行部会 (持ち回り)
- 7日 (行事) 新渡戸カレッジ基礎プログラム合格発表 (大学院)
- 11日 (行事) 新渡戸カレッジ基礎プログラム仮入校合格発表 (学部)
- 12日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ運営会議学部教育コース教務専門委員会 (持ち回り)
- 14日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第6回
- 15日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ運営会議 (持ち回り)
- 15日 (会議) 第1回教育改革室会議 (持ち回り)
- 15日 (会議) 第105回教務委員会 (持ち回り)
- 16日 (行事) 新渡戸カレッジ入校式・新渡戸Day：(一部ELMS配信) (学部)
- 16日 (行事) 新渡戸カレッジ入校式：(オリエンテーション・初回授業オンライン実施) (大学院)
- 18日 (行事) 新渡戸カレッジオナーズプログラム入校者ガイダンス：(スライド・資料ELMS配信) (学部)
- 18日～22日 (会議)
 - 入学者選抜委員会 (持ち回り)
- 20日 (会議) ELMS定例会
- 21日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第7回
- 21日 (会議) オープンエデュケーションセンター連絡会
- 26日 (会議) 第1回学生委員会 (持ち回り)
- 28日 (オンライン検討会)
 - オンライン授業導入検討会 第8回
- 29日 (会議) 第1回授業評価専門部会
- 29日 (会議) 第2回新渡戸カレッジ定例会 (Web会議) (学部)

6月

- 3日 (会議) 第106回教務委員会 (持ち回り)

- | | | | |
|----------|--|----------------|------------------------------------|
| 6日 (研修) | 新渡戸カレッジ教員対象FD「プロジェクトマネジメントワークショップ」(オンライン研修)(大学院) | 9日 (研修) | 学生はオンライン授業をどう受け止めているのか(高等教育研修センター) |
| 12日 (会議) | 第3回新渡戸カレッジ執行部会(Web会議) | 15日 (会議) | ELMS定例会 |
| 17日 (会議) | ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会 | 16日 (会議) | オープンエデュケーションセンター連絡会 |
| 18日 (会議) | 令和2年度第1回北海道FD・SD協議会幹事会 | 16日 (研修) | 学生はオンライン授業をどう受け止めているのか(高等教育研修センター) |
| 23日 | 令和3年度総合型選抜・国際総合入試・帰国子女入試学生募集要項公表 | 18日 (行事) | 第1回新渡戸カレッジセルフキャリア発展ゼミ(オンライン実施)(学部) |
| 26日 (行事) | 新渡戸カレッジ新任メンター事前説明会(資料・動画の送付)(学部) | 20日 (説明会) | 北海道大学入試説明会(オンライン開催: 高校教諭対象) |
| 26日 (会議) | 第3回新渡戸カレッジ定例会(Web会議)(学部) | 21日 (会議) | 令和2年度北海道FD・SD協議会総会 |
| 29日 (会議) | 令和2年度第2回高等教育推進機構運営委員会 | 21日 (会議) | 第1回総合教育委員会 |
| 30日 (会議) | 第2回教育改革室会議 | 22日 (オンライン検討会) | オンライン授業導入検討会 |
| | | 30日 | 令和3年度入学者選抜要項公表 |
| | | 30日 (会議) | 第2回学生委員会(持ち回り) |
| | | 31日 (会議) | 第4回新渡戸カレッジ定例会(Web会議)(学部) |

7月

- 3日 (会議) 第4回新渡戸カレッジ執行部会(持ち回り)



行事予定 SCHEDULE, September-December

◆9月

- 8 (火) 全学教育科目成績Web上公開
- 8 (火) ~ 9 (水)
全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立期間
上旬~中旬
学科等分属手続：当該学部(2年次以上)
- 18 (金) ~24 (木)
第1次Web履修登録期間 (Web入力)
- 18 (金) ~24 (木)
抽選科目の申込期間 (Web入力)
- 20 (日) ~21 (月)
オープンキャンパス
- 23 (水) 学部・学科等移行ガイダンス
- 24 (木) 学部・学科等紹介
- 25 (金) ISP入学式
- 28 (月) 第2学期授業開始日
- 28 (月) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 28 (月) ~10/2 (金)
学部・学科等移行手続き(予備志望調査)

- 29 (火) ~10/4 (日)
第2次Web履修登録期間 (Web入力)

◆10月

- 6 (火) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 6 (火) 予備志望調査結果発表
- 7 (水) ~13 (火)
履修登録 (Web入力)
- 20 (火) ~21 (水)
履修時間割確認期間

◆11月

- 24 (火) ~26 (木)
履修登録科目の取消期間 (Web)
- 30 (月) ~12/2 (水)
自由設計科目登録変更期間

◆12月

- 28 (月) ~1/4 (月)
冬季休業日



ニュースレター 2020, No.118 目次

北大の入試改革はどうなった? 岩間 徳兼 1	日誌 5
全学教育委員会報告 3	行事予定 7
経済同友会と連携したインターンシップ プログラムはオンラインでの実施 4	目次・編集後記 8



編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、これまでニュースレターで扱ってきた活動の多くが中止や延期を余儀なくされました。そのため、今号の内容は寂しいものとなってしまいました。編集を行っているのは7月末。本来ならばオリンピックで国中が盛り上がっていたはずだと考えると、なんだか一層やるせない気持ちになります。

しかし、そうも言っていられませんね。想像力をしっかりと働かせ、責任のある行動を取って、日々懸命に生きていくしかないですね。

(海苔)

ニュースレター

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)
通算 第118号

発行日： 2020年 8月31日
 発行元： 北海道大学高等教育推進機構
 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
 編集委員：◎細川敏幸・鈴木誠・飯田直弘・岩間徳兼
 ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで
 電話 (011)706-7514, FAX (011)706-7521
 インターネットホームページ：
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html>